

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 本城 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

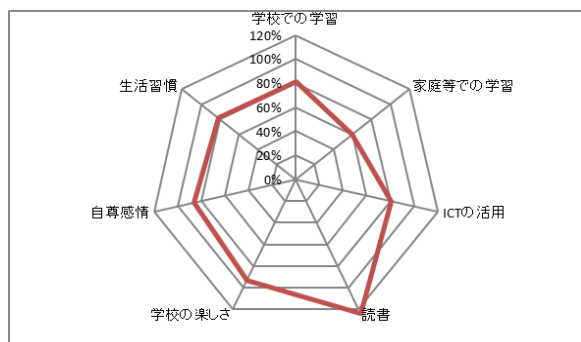
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	本校では、「話すこと・聞くこと」に関する問題の正答率が高いのに対して、「書くこと」「読むこと」の正答率が下回っている。問題形式では、「短答式」の問題の正答率が高いのに対して「選択式」「記述式」の正答率が下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができている。	
	努力が必要な問題	漢字の知識を問われる問題は、他の問題に比べ正答率が下回っており、無答率も高かった。また、他の領域に比べ、「書くこと」領域の問題においても、正答率が下回っている。	
算数	全体的な傾向や特徴など	本校では、「数と計算」に関する問題の正答率が高いのに対して、「変化と関係」「図形」の正答率が下回っている。問題形式では、「選択式」「短答式」の問題の正答率が高いのに対して「記述式」の正答率が下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	被乗数に空位のある乗法の計算をすることができている。	
	努力が必要な問題	伴って変わる2つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えについて正答率が下回っている。	
理科	全体的な傾向や特徴など	本校では、「生命を柱とする領域」に関する問題の正答率が高いのに対して、「エネルギーを柱とする領域」「粒子を柱とする領域」の正答率が下回っている。問題形式では、「選択式」の問題の正答率が高いのに対して「短答式」「記述式」の正答率が下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができている。	
	努力が必要な問題	実験で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述する問題について正答率が下回っている。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・日々の学校生活の中に読書時間を取り入れ、読書をするのが習慣化し、読書が好きな児童が多い。 ・自尊感情が高まっており、自身のよいところを理解しており、人の役に立ちたいと思う児童が多い。 ・学校で友達と協力することに楽しさを感じる児童が多い。 ・自分で計画を立てて勉強することや、家庭学習時間を確保することが難しい傾向にある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・学習課題を子どもたちと一緒に明らかにした上で、「めあて」づくりを行い、課題解決の見通しを確実にもたせる。
- ・自分の考えを書いたり、話し合ったりする活動を学習に位置付け、具体的に「何を」「どう」表すのか目的をもたせる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・本城小学校「生活のきまり」を全家庭に配布し、全職員共通理解の下、指導を徹底する。
- ・家庭や地域と密に連絡を取り合い、保護者との共通理解を図る。
- ・学校だより、学級通信、学級懇談会等を通じて家庭学習や生活習慣の大切さを訴えるとともに、継続的に啓発を行う。